校長室だより

２０２２年６月３日
校 長　小崎（こさき）　功二（こうじ）

学校 HP

モラル ハラスメント

以前，校長室だより２０２１年４月２３日号「いじめ問題について」の冒頭で，「いじめは子供だけの問題ではなく，大人社会にも様々な形のハラスメントとして存在し，大人から気をつけて子供たちに手本を示さなければならない。」という内容を記述し，ご家庭にも協力を呼びかけましたが，今回は，大人社会の中にある様々なハラスメントの中でも特に被害者が多い「モラルハラスメント」について取り上げ，私の考えを述べます。

モラルハラスメント(モラハラ)は，日常の何気ないやりとりの中でも，しばしば見られるものです。身近な誰かの行動の中に非難できるポイントを見つけ，そこを陰湿に指摘したり，自分が主導権を握る形で相手が回答に困るような質問をぶつけるなどして，相手の価値を貶（おとし）めるのがモラハラ加害者の常套手段です。モラハラ加害者は相手を見下すことで優越感に浸ることができるのでしょうが，人権上許されない卑劣な行為です。

モラハラ加害者になりやすい人には，一般的に次のような特徴が見られることが多いと言われています。

･自分が優位に立ち，賞賛が得られないと気が済まない。
･他人の気持ちに共感することや，心を通わせたいという気持ちがない。
･他人をほめることをせず，欠点をあげ，悪口を言うことが多い。
･自分の考えや意見に異を唱えられることを嫌い，無条件に従うことを要求する。
･自分の利益のために，他人を利用する。
･自分は特別な人間だと思っている。
･時々突然奉仕的な行動をとり，それを受け入れることを強要する。

上記のような利己的な気持ちは，全ての人が多かれ少なかれ持っているものです。私も，いくつか心当たりがありますが，それが，自分よりも弱い立場の人に対して度を超えて強く表れてしまうと，ハラスメントとなって相手を傷つけてしまうことになります。日頃から自分自身でチェックして，お互いに気をつけたいものです。

モラハラ的な言動を受けたときには，「解決不可能な問題」と決めつけず，まず「そんなことを言われたら傷つく」という自分の気持ちを伝え，早い段階で相手とじっくり話し合うことが大切です。

とは言え，モラハラ加害者には自分の言動のハラスメント性に無自覚な人が少なくありません。それは，物事を自分に都合よく解釈してしまうためです。そうすることで，人を貶めなければ自尊心を保てないという自分の弱さに直面することを避け，自己を防衛しているのです。したがって，モラハラ被害者がモラハラ加害者の心を変えようと努力しても効果は薄く，疲弊してしまうことが多いのです。

自分では対応できない場合には，我慢したり抱え込んだりせず，信頼できる第三者に相談するか，外部の相談機関に訴える必要があるでしょう。

一般的には，上記のような状況が社会全体，多くの職場に蔓延しているようですが，私たちの郡山小学校は，その波にのまれず，人間関係に無駄な労力を費やすことなく，大切な子供たちのために協力して職務にあたることができる職場にしていきたいと思っています。職員には，もしも同僚に対して不満等が出てきた際にも決して意地悪や嫌がらせに走らず，話し合いながら，協力して解決していこうと呼びかけています。

切 り 取 り 線

子供たちのための，意見・提案・要望・校長に知らせたいこと　など

2022 年 6 月 3 日（　）年（　）組 児童氏名

※メールでも随時受け付けております。kosaki-k@sendai-c.ed.jp（校長直通）